工友会会報

第49号

工友會會報

発行所
岡山県立岡山工業高等学校
工友会
岡山市伊福町4丁目3番92号
編集責任者：佐藤　弘典
福嶋　肇
印　刷　所：株式会社サラト

ご意見、情報はこちらまで
TEL 086-252-5231
FAX 086-252-7130

ご挨拶

工友会会長
山本　鴻
（昭和 29 年土木科卒）

平成十九年度（第49号）工友会報発行にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

工友会のみなさまにはご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げますとともに、平素より工友会活動に対し多大のご支援、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

今朝、新聞を眺めておりましたところ、「岡山工高」の活字が目に入って参りました。母校も少子化の影響を受け、在校生は減少しておりますが、生徒のみなさんは勉強に部活動にとよく励んでくれており、その活躍ぶりが度々報道されております。卒業生の一人として大変うれしく心が和み、今日一日さわやか気分で過ごせそうであります。ちなみに今日の記事は「半導体作り成果発表」でありました。

平成十九年は明るい話題の少ない一年でありました。初の戦後生まれのリーダーが誕生し、「美しい国」づくりを目指し長期政権が期待されましたが、年金記録問題の不備、相次ぐ閣僚の失言や不祥事、参院選の惨敗、前政権からの格差問題にも手が打てず、政権発足一年を目前に突然の退陣表明は「まさか」の出来事でありました。

景気は回復期間が平成十四年より続いており「いざなぎ景気」を越えて戦後最長を更新しておりますが、問題は業績好調な企業部門から家計部門に伝わらないことでありますが、先行きも弱含みながら回復が予想されておりますが、すでに原油高などの影響を受け、物価の上昇が続いており、不安材料も多いことから、万全の対策が必要かと存じます。

今年も地球的課題であります温暖化問題が各分野で議論されておりますが、気象においても昨年来から引続いての大暖冬で始まり、夏場は強力な猛暑が続き気象庁も最高気温が摂氏35度以上の日を「猛暑日」と新たに定義したほどでありました。このようになぜか世の中驚くことの多い一年でありました。工友諸兄もご苦労の多い年であったかと思いますが、更なる頑張りを願うものでございます。

平成十九年は統一地方選挙の年でありました。岡山市議選に工友の中から工友会として推薦いたしておりました、和気健氏（昭四十一年土卒）、礒谷和行氏（昭四十一年機卒）、磯野昌郎氏（昭四十六年電子卒）、田中慎弥氏（昭五十四年電卒）、の各氏が見事当選されました。工友みなさまの絶大なご支援をいただきました。厚く感謝申し上げます。平成二十一年に政令指定都市に移行して、中四国の拠点都市を目指す岡山市にとって、都心の活性化は大きな課題であります。工友市議のこれからの活躍にご期待申し上げるところでございます。

春の教員異動で校長の異動がありました。四年間、勤務いただきました宇佐見校長が定年でご勇退されました。長年のご苦労に敬意を表し、これからのご健勝とご活躍をお祈りするものでございます。代わって東岡山工高校長の小林校長が赴任されました。よろしくお願い申し上げます。

平成十八年、秋の叙勲で三名の工友が受賞の栄に浴されました。工友にとりましても名誉なことと祝福申し上げ、ますますのご活躍を祈念するものであります。

平成十九年度の総会は去る七月八日（日）にアイサワ工業株式会社支部にお世話いただき、岡山プラザホテルで開催いたしました。予算、決算等の承認と、懇親会では後輩達の学習状況を映像で拝見させていただき、遠い昔を想い、楽しいひとときを過ごさせていただきました。ご準備いただきましたアイサワ工業株式会社支部の逢澤裕二（昭五十年土卒）支部長をはじめ支部工友のみなさま方に厚くお礼申し上げます。

平成二十年度の総会は株式会社荒木組支部（支部長、中山忠・建四十年卒）のお世話で七月に開催する予定であります。工友多数のご参加をお待ちしております。

最後になりましたが、工友みなさま方のご健勝とご多幸、母校の発展をお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。

ご挨拶

校　長
小林清太郎

厳しい冬の寒さの中にも、時折降り注ぐ窓越しの柔らかな日差しに、確かな春の訪れが感じられる季節となりました。工友会会員の皆様方には、益々ご健勝でご活躍のことと心からお喜び申し上げます。

皆様方には、平素から母校教育活動の充実・発展のために、深い御理解と物心両面にわたる多大なご支援・ご協力を賜っておりますことに厚くお礼申し上げます。

私こと、この度、輝かしい歴史と伝統を誇る本校に、昨年4月から勤務させていただくことになりました。元より非力ではございますが、本校の更なる充実・発展のために力を注いでまいりたいと存じますので、ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

さて、本誌面を拝借して学校の近況をご報告いたします。

昨年6月、奨学会の皆様のご理解とご協力により、24のホームルーム教室にエアコンが設置されました。7月から9月にかけては冷房装置、12月から2月にかけては暖房装置として活用しており、生徒は快適な学習環境の元で「ものづくり」の基礎的・基本的な知識と技術・技能の習得に励んでいます。

部活動においては、体育系20部・文化系8部と12同好会に多くの生徒が所属して熱心に活動しています。

夏のインターハイには、自転車競技部、ボクシング部、陸上競技部の3部から9名が出場し、ボクシング競技と自転車競技で共に5位入賞を果たしました。全国大会には少林寺拳法部の生徒8名、全国高等学校総合文化祭には写真部の生徒4名が出場しました。なお、写真部の生徒5名は平成20年度の出場権も既に獲得しています。

国民体育大会には、自転車競技部、ボクシング部、弓道部、バスケットボール部、陸上競技部の5部から9名が出場し、ボクシング競技は3位、弓道競技は5位、自転車競技は7位入賞という好成績を残しました。

また、陸上競技部の生徒1名が第1回日本ユース陸上競技選手権大会に出場、自転車競技部は中国大会で8連覇を達成、バスケットボール部は春季県大会で優勝、吹奏楽部は県吹奏楽コンクール・高校小編成の部で3年連続金賞を受賞するなどの活躍をするとともに、ものづくりの分野においても、岡工で開催したジャパンマイコンカーラリー中国地区大会の団体戦で2位、個人戦では電気科の生徒3名が全国大会への出場を果たしました。

3年目の最終年度を迎えた文部科学省委託事業「ICT人材育成プロジェクト」では、実習室内に設置したクリーンブース内において、7月末に日本の高校では初めて「半導体の製造」に成功しました。11月末には、体育館において研究成果発表会を開催し、プロジェクトに携わった生徒の代表4名が、全校生徒・教職員と文部科学省をはじめ県内外からの参加者を前に、3年間の取り組みや研究成果を発表しました。このプロジェクトは、文部科学省の研究指定が終了する平成20年度以降も継続する予定にしています。

このように、生徒はものづくりを中心とした学習や資格取得と部活動を両立させ、先輩方から引き継いだ文武両道の精神で頑張っており、学校は生き生きと活動する生徒の活気で溢れています。お近くにお越しの際には、是非とも母校にお立ち寄りいただき、在校生や教職員を激励していただければ幸いです。

結びにあたり、工友会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

平成20年度 工友会総会に向けて

株式会社荒木組支部　事務局長
山﨑　光（昭和43年建築科卒）

ほのかな梅の香に、鶯の笹鳴きから囀りに移り変わり、春の足音が迫りつつある今日この頃でございます。工友会の皆様におかれましては、ますますご健勝でご清栄のことと存じ上げます。

このたび平成20年度工友会総会の重責を引き受け致しました。㈱荒木組支部（会員24名）の山﨑です。大役を担ったものの身の引締まる思いです。我社は平成9年度に続き二度目の担当になります。微力ではありますが、当社支部会員が一丸となって努めたいと思います。

私ことながら、母校を卒業して40年を迎える今年。また、定年まで1年と数ヶ月となりました。平均寿命（男）までの20年間をどのように消化するか、果たしてそこまで生き着くことが出来るか、現在の立ちはだかる荒波を乗り越える手段を模索しているところです。

21世紀の環境年を迎え、立ちはだかる国際問題、地球温暖化、原油高騰、エネルギー依存等、さまざまな問題が紙面を覆っています。我国においては、建設工事の設計偽装、食品偽装、年金問題等々、われわれ団塊世代の肩にずっしりと圧し掛かり、避けては通れない情勢です。

岡山県では平成20年に向けての夢づくりプラン、道州制、チボリ公園。岡山市では政令指定都市構想など、先行きがどのように動くのか…。足元を固め一つひとつの問題を解決することが出来るのか、不安要素が圧し掛かってきています。あの手この手で乗り切らねばなりません。

さて、昨今の蠢く情勢はともかく、母校唯一の全体交流会である工友会総会を有意義なものに致したく試行錯誤しております。総会に引き続き懇親会を計画しております。一年に一度のこのチャンスに同窓、諸先輩の方々とのひと時を語らいませんか。工友会の皆様の多数のご参加をお待ち致しております。

なお、総会の開催日は平成20年7月13日第二日曜日、会場は岡山プラザホテルを予定しております。

工友会総会を終えて

アイサワ工業株式会社支部
支部長　逢澤裕二
（昭和50年土木科卒）

工友会の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申しあげます。

平成19年度工友会総会及び懇親会を平成19年7月8日（日）岡山プラザホテルに於いて、私どもの支部が担当させていただきました。

当日は快晴の中、211名のご出席をいただき、盛大に開催することができました。ご出席いただきました会員の皆様、また、試験中のお忙しい中、小林校長をはじめ来賓の先生の皆さんのご出席、本当にありがとうございました。

なにかといたらぬ部分があったとは思いますが、ご容赦をお願いいたします。

また、残念ながらご都合等によりご出席いただけませんでした会員の皆様におかれましても、今後の総会には出来るだけ多くの皆様のご出席をお願いいたします。

総会は、山本工友会会長、小林校長のご挨拶で始まり、選出された井上議長の進行により議事に入り、会員皆様のご協力により、全ての議事についてご審議をいただき、滞りなく審議を終えることができました。

議事内容は次のとおりです。

1. 平成18年度会務及び事業報告
2. 平成18年度決算報告及び監査報告
3. 平成19年度会務及び事業計画（案）審議
4. 平成19年度予算（案）審議
5. その他

（役員・支部一覧表について、賛助会員について、叙勲褒章の受章者紹介、平成20年度担当支部紹介）

また、議事終了後、山本会長より叙勲受章者へのお祝いの品の贈呈及びご挨拶と次期担当支部の㈱荒木組支部中山支部長のご挨拶がありました。

尚、叙勲受章者の方は次の方々です。

山本会長　瑞宝双光章（昭和29年土木科）
佐藤一様　瑞宝双光章（昭和30年機械科）
大森一弘様　瑞宝双光章（昭和32年機械科）
黒住朗様　瑞宝小綬章（昭和29年機械科）

叙勲受章者の皆様におかれましては、工友会員としてこの栄誉に対し誇りに思います。本当におめでとうございました。

総会終了後、同会場にて集合写真撮影の後、懇親会に移り、開会宣言・鏡開き・高原副会長による乾杯により懇親会が始まりました。

交流タイムに続き、学校の紹介ＤＶＤにて現在の母校の様子を見ていただき、山内副会長指揮による出席者全員による校歌斉唱、岸本副会長による閉会の挨拶、田中副会長による三本締めにより解散いたしました。

お帰りの際には、集合写真を全員にお配りさせていただきました。

参加していただいた会員の皆様の笑顔を拝見させていただいただけで、支部会員一同苦労が報われた感じがいたしました。また、各テーブルにご挨拶にお伺いさせていただいた時に、たくさんのねぎらいのお言葉をいただき、今回お手伝いさせていただいて本当に良かったと思いました。

今回、工友会総会及び懇親会を担当させていただいたわけですが、私自身前回の担当の時は、一支部員として走り回っているうちに終わったという感じでしたが、今回支部長として会全体を準備していく中において、仕事との折り合いであるとか、学校事務局やホテルとの調整、支部員間の調整等、試行錯誤の連続でありましたが、学校事務局の皆さんやホテルや支部員や前回担当支部である中国電力支部さんのご協力により、無事に終えることができました。最後になりましたが、関係皆様のご協力ありがとうございました。心より感謝申しあげます。今回ほど工友会会員の絆の深さを感じたことはありませんでした。この経験を次期担当支部である㈱荒木組支部に伝えていきたいと思います。

今後におかれましても工友会の益々の発展と工友会会員の皆様のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、お礼の挨拶とさせていただきます。

支部だより

関東支部

事務局長
池口健児
（昭和34年機械科卒）

次回関東支部総会
日時：平成20年4月20日㈰　11：30～
場所：銀座アスター　お茶の水賓館

平成十九年度も残す一カ月となりました。国内・外では話題を残す越年となりそうです。国内では「防衛省スキャンダル」国外ではアフガン・イラクのテロ対策等毎日のテレビ新聞報道で永田町の激震が走っております。郷里の国会議員の片山前参議・江田参議・菅衆議等々虎退治の名言で岡山も有名となりました。

当関東支部は、遠く岡山を離れた同窓の唯一の心の郷里と位置付け、今日まで頑張って参りました。十九年の支部総会は四月十五日、お茶の水の銀座アスターで開催し、岡山より山本会長、小林校長、佐藤事務局長のご来席のもと無事終了致しました。参加者は二十四名、多少減ってはいますが昭和三十年代までの卒業生が主で、比較的若い方の上京組が少ないようです。関東支部は茨城・千葉・神奈川・埼玉・東京都の一都四県に広く一同に会しての催しは、なかなか難しいものがあります。実態としては横浜地区、千葉JFE地区等個別に集って山歩きゴルフ等が催されています。

さて、既に昨年より本部会報の発送手順が岡山に変更になりました。支部として役員幹部会を設けまして評議し中間報告ですが

一、支部会費の徴収は中止する。
一、支部会報の発送は本部の住所データで岡山より発送する。（原稿を岡山に送る）
一、支部総会の案内・会場・設定は支部が案内状を含めて行う。等最終決定を両者の打合せの上、検討する予定です。

訃報ですが、機械科昭和八年卒貝原玉太郎翁は関東地方において後輩の為、書道・詩吟・他広く教養の師としてご指導下さいました。心より御冥福をお祈り申し上げます。

大阪支部
（岡友会）

事務局長
高橋紀二
（昭和33年工業化学科卒）

次回大阪支部総会
日時：平成20年10月25日㈯　12：00～
場所：ガーデンシティクラブ大阪

工友会会員の皆様には、ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

平成19年度第27回岡友会（工友会大阪支部）総会が11月3日（土）12時より恒例であった大阪京橋の「扶桑会館」より大阪西梅田の「大阪ガーデンシティクラブ」に変更して開催されました。秋の最高の日程のためか、いささか心配致しました通り会員諸氏のご予定と重複して、約40名の方がご参集され、例年のように久しぶりの再会を楽しんでおられました。

総会開始前に幹事会が開催され、1年間の業務報告とその反省、次年度の取り組み事項、会計報告、会計監査、役員改選等の原案が話し合われ、総会に諮られます。

総会には、ご多忙の中ご来賓として工友会山本会長、母校小林校長先生、工友会事務局長の佐藤先生、岡山県大阪事務所長三宅様にご出席を頂きました。

総会は為房岡友会会長（化学科昭和25年卒）より、「発足の経緯、また在阪の同窓会継続は、この間、工友会本部、母校のご指導、在阪会員のご協力で第27回総会が迎えられましたことに、心より感謝致します。華やかな総会までには到りませんが、会員諸兄の交流の場として今後も岡友会活動を続けて行きたいと思います。よろしくご協力を願います。」とのご挨拶がありました。

山本会長からは、去る7月に工友会総会が「アイサワ工業」支部の担当で盛大に開催された事、最近の岡山市・岡山県の近況報告として、同窓諸氏が在学中に利用したと思う「岡山駅西改札口」が改装される等のお話を頂きました。また、岡友会は岡山より若干離れていますが大阪近郷の在阪支部として、今後も益々発展されることを期待致します。とのご挨拶を頂きました。

小林校長先生より、今年4月に「岡工」に着任した旨お話になり、現在、指導先生、学生諸君が「IT関連技術」ですばらしい成果を出しているお話をまじえて

のご報告とご挨拶を頂きました。

佐藤先生（事務局長）より、「本部工友会会報の充実を図る外、記念会館の有効利用として、工友のご訪問があれば、いつでも入場できるように段取り致します。また、工友会名簿（２００９年版）の発行を計画中、来年（２００８年）には調査を開始する予定です。

なお、名簿発行時には、キッチリとした案内をするので、工友会・学校とは無関係な「勧誘の話」には乗らないで頂きたい。との紹介とご注意を頂きました。

その他、「岡工新聞」「平成18年度の岡工学生諸君の活躍を掲載した新聞報道集」岡工校誌「東天」を各員が頂戴致しました。「今後も、会員諸氏の交流の場としての工友会会報の充実に努めたいので記事があれば、どしどし応募して欲しい」との要請もあり工友会活動の一端のご報告とご挨拶を頂きました。

三宅岡山県大阪事務所長より、最近では郷里・牛窓、その他の地域が映画ロケ地（釣りバカ日誌）となったご案内もありました。なお、大阪市中央区に岡山県大阪事務所があり岡山県の発展を期して関西方面で活動している等々のお話を頂きました。

「議事」に入り、岡友会事務局より会員動静、親睦ゴルフ大会開催、総会開催までの一連の事務報告を含め1年間の動きが報告、続いて会計収支報告、会計監査報告がなされ、報告内容が承認されました。

無事に総会を終え、三宅大先輩（土木科昭和9年卒）の乾杯の音頭で懇親会に入りました。会では還暦を迎えられた会員に〝杯〟を贈ることになっており、今年も為房岡友会会長（化学科昭和25年卒）より贈呈されました。

毎年の事ながら、卒業年次、科別の違いはありますが同窓のよしみで、ご来賓の山本会長を囲みお昼の一時を楽しく過ごしました。

時間も経過しましたが、前田先輩（化学科昭和29年卒）の編曲したＤＶＤの寄贈による伴奏つきで恒例の校歌斉唱「東天燃える紅の旭の流れ…」を意気軒昂に歌いあげ、お互い健康には十分留意して来年の再会を約し散会となりました。

第27回岡友会（工友会大阪支部）総会が無事終了したことを支部報告と致します。

● 広島支部 ●

支部長
伊丹　剛
（昭和26年土木科卒）

次回広島支部総会
日時：平成20年6月7日㈯　11：00～
場所：ホテルセンチュリー21広島

工友会員の皆様にはご健勝にてご活躍の事とお慶び申し上げます。

工友会広島支部の近況をご紹介いたします。

平成十九年度広島支部総会が六月二日十一時より開催され、工友会本部より山本工友会長・佐藤事務局長、母校から小林校長のご臨席を賜り、支部会員十二名が出席して開会いたしました。

総会ではご来賓の皆様より工友会本部の活動や岡山県や他支部の近況、事務局からのお知らせ、母校の現状や活躍ぶりをお聞きし、出席の支部会員一同は大変心強く感じると共に、広島支部が発展しなければと思いを新たにいたしました。

黒崎議長（昭和17年土）のもと議事の審議に入り平成十八年度の報告及び平成十九年度の計画が承認され閉会となりました。その後、懇親会に移り河原大先輩（昭和13年土）の乾杯の音頭で始まりお年を感じさせない詩吟や、岸本氏（昭和27年土）のイラクでの内輪話、有志によるカラオケやスピーチと余興など楽しいひと時を過ごして来年の再会を約し散会となりました。

その他広島支部行事として新年互礼会を二月、暑気払いを八月に、ゴルフ仲間の岡広会を四月から十二月まで毎月第二木曜日に開催し十月の取り切り戦では田形信行氏（昭和36年機）が優勝されました。次に秋季親睦会を三近氏（昭和35年建）の企画にて十一月二十四日から二泊三日で沖縄方面に旅行いたしました。

最後に、工友会員のご健勝と母校のご繁栄をお祈り申し上げます。

● 女性支部 ●
（あじさいの会）

支部長
鳥越　梓
（昭和33年工業化学科卒）

次回女性支部総会
日時：平成20年6月8日㈰　11：00～
場所：えきまえミヨシノ

工友会会員の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

女性支部（あじさいの会）は、女性工友会員（女性卒業生）全員を母体に構成されている支部です。二十年前の昭和六十三年五月二十九日に、女性支部発足総会がありました。以来、毎年の支部総会、工友会総会への参加、岡工祭での卒業生の作品展、また東古松支部との交流など、岡工で学んだ絆を大切に活動を続け、親睦を深めて参りました。発足に当たっては、当時の和田校長、吉岡先生、武市工友会副会長に多大なご尽力を賜ったと聞いております。

岡工へ女性が初めて入学したのは昭和二十六年のこと、一期生は二十九年卒、今年は五十五期生となります。現在の支部会員は七十二名ですが、そのご住所は全国に及びます。私達は、世代も、学んだ科も、生活環境も、夫々に大きく異なります。支部活動を通じて初めて知り合い、楽しく語らい、親しくお交わりをさせて頂いております。この素晴らしい輪の中に、一人でも多くの方にお入り頂くのが私達の長い間の夢でございます。

昨年六月十日の総会で、支部会報発行のご提案があり、会員の皆様のご協力により、十月一日付で創刊することが出来ました。遅々たる歩みですが、岡工の枝に連なる女性同志のコミュニケーションのために、今後も皆で知恵を出し合い、模索を続けて行きたいと思います。

今、工友会会報をお手にしていらっしゃる女性の皆様、是非とも女性支部の存在をお心に留めて頂きとう存じます。そして、ご一報願えれば幸いです。

また、折に触れご案内を差し上げることもあるかと思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

女性支部事務局
岡山県都窪郡早島町若宮八―二四
鳥越　梓
（TEL・FAX）〇八六―四八二―〇八〇〇

叙勲受章者

祝　栄誉

昨年秋
瑞宝双光章　**大森一弘**
機械科32昭和卒年

本年秋
旭日双光章　**槙枝郁雄**
機械科31昭和卒年

瑞宝単光章　**片山邦臣**
土木科38昭和卒年

平成20年度工友会総会の案内

担当支部	株式会社荒木組支部
支部長	中山　忠
日時	平成20年7月13日㈰10時より
場所	岡山プラザホテル
電話	086－272－1201

Hospital Art
ホスピタルアート

上田（中山）忍
（昭52年工業デザイン科卒）

このたび、このように工友会の会報にメッセージを書かせていただきまして、とても嬉しく思っています。

私は童画家としてずっと絵を描く仕事をしてきました。長い間、紙の上に描くことが多かったのですが、最近は壁に描いたり柱に描いたりすることも増えてきました。どこの壁や柱かといいますと、それは産婦人科の手術室や分娩室、小児病棟のプレイルームにある柱などです。そこには、患者さんの緊張感がやわらぐように、少しでも気持ちがなごむようにという目的で絵を描きます。病院施設に描くこのような絵のことを最近では、ホスピタルアートと呼ばれるようになりました。

思えば、私が初めて手がけたホスピタルアートは、もう二〇年も前のことになります。神戸で展覧会をひらいた時に、たまたま見に来て下さった小児歯科の先生から「子どもたちが治療を恐がらないように、楽しい絵を描いてほしい」と頼まれたのです。壁には森の動物たちや子どもたちに馴染みのある物語の主人公を描きました。楽しい壁画になったのですが、あの時、はたして私は、患者さんのことを想いながら描いていたかしらと気になります。確かに子どもたちが喜ぶような絵は描いたけれど、私の心の中は、私自身の創作の喜びでいっぱいだったような気がします。

あれから月日がたち、一年ほど前、国立病院医療センターの小児病棟にあるプレイルームの柱に絵を描きました。柱は丸くて建物の強度を高めるために必要なものですが、真っ白であまりにも殺風景。子どもたちが集う部屋には不似合いでした。

この二〇年間、いくつかの病院で絵を描いてきましたが、小児病棟というのは初めてでした。大きな病院だけに重い病の子どももいます。そして、子どもたちを支える家族もいます。ここに、どんな絵を描けばいいのだろう…と、しばらく悩みました。年を重ね、子を持つ親となった私には、その柱に気楽に絵を描くことができませんでした。プレイルームで病気と闘う我が子を見つめるお母さんの気持ちが痛いほど伝わってくるのです。

少しでも入院中の子どもたちやお母さん、あるいはお父さんの気持ちが、なごんでくれたらいいな。ちょっとでも気分転換になればいいな。そんな想いを一本一本の柱に込めて描く。そのことがとても大切なんだと気がつきました。

今年、私は五〇才になります。若い頃のような、はじけた絵はもう描けません。でも年を重ねたからこそ、描き続けてきたからこそできる仕事もあります。私にとって、ホスピタルアートはまさにそれです。

これから先、医療現場での「アート」はとても重要になるでしょう。岡工各科卒業生のみなさま方の中には、建築に携わっている方も多くおられることと思います。病院や介護施設などを作られる時、ぜひ色や絵の力を信じて、どんどん取入れていただけるよう願っています。

ところで、私は筆のかわりにタオルを使って絵を描いています。これは高校一年生の時、デザイン科の先生に教えていただいた手法です。小さく切ったタオルに絵の具をつけ、ポンポンポンと色を重ねていくのが、とてもしっくりときて、以来ずっとタオルで描いています。病院の壁や柱にもタオルで描きました。とてもやわらかな雰囲気になります。これから先も、この描き方で、ずっと絵を描いていくことでしょう。時々、岡工生だった頃の自分を思い出しながら、ポンポンポンと描いていくことでしょう。

最後になりましたが、岡工と工友会の益々のご発展を心よりお祈り申しあげます。そして、なかなか参加できず心苦しいのですが、女性支部（あじさいの会）のみなさま、今年こそ総会には、出席したいと思っています。

カバヤの工場
見学コースに
可愛い看板を制作

制作中の上田さん

作品「桜便り」

紙粘土で
作った指人形

ヘリコプタ人生

日本ヘリコプタ協会名誉顧問
米国ヘリコプタ学会名誉会員
義若　基
（昭和二十年機械卒）

今年は傘寿、私の人生、荒波の立つ世界を駆け巡る航海でありました。

貧しい困難な昭和の初めは敗戦を結果し、学窓を戦後復興の初期に巣立ち、四十年間は川重「金無」、退職後の二十年間はボランティア・ヘリコプタ人生、これも2006年十一月名古屋国際会議場における第三回AHS国際会議「ヘリコプタの先進技術と救命・防災」で幕を引きました。

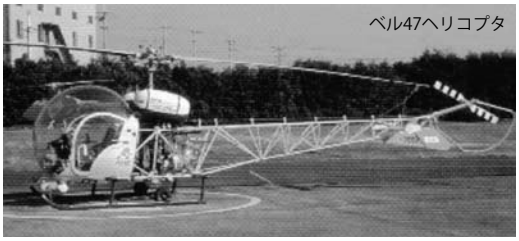
旧友に「お前はもう思い残すことは無いだろう」と良く言われます。が、未だ一つ、「故郷・瀬戸内の海を望む丘に墓を建てる」ことが残っています。

墓地は数年前に手当てしたのですが、墓を建てる余裕が有りませんでした。しかし、それも本年中には建てる積りです。もう後がありませんから。

●ヘリコプタ暦第1期 1952～1961年（昭和二十七～三十六年）の十年間

川崎重工業（株）明石工場にて、日本で最初に竹とんぼのベル47型ヘリコプタの技術導入・製造が始まった。

私にとっては、ヘリコプタ技術者駆け出しの時代、明石の時代でありました。


ベル47ヘリコプタ

空気力学担当、日本最初のヘリコプタ飛行試験を計画実施、運輸省航空局型式証明第1号（1955昭和三十年三月）を取得した。

ヘリコプタの地上共振、シーソーロータのウイービング等の研究にも従事し研究論文も発表できました。

続いて大型ヘリコプタV107導入計画を担当。事業展開は川重岐阜工場と決定され、1961昭和三十六年一月一日付の発令、高橋忠男課長と二人岐阜へ転勤命令、一月十九日V107導入計画を携えて雪の降り積もる岐阜駅に下り立った。

●ヘリコプタ暦第2期 1962～1981年（昭和三十七～五十六年）の二十年間

川崎重工は大型ガスタービン・ヘリコプタV107、小型ガスタービン・ヘリコプタOH6を導入した。

KV107ヘリコプタ
消防ヘリ開発試験1976年、サウジで運航

OH6小型ヘリコプタ

ガスタービン・エンジンの搭載と設計技術の進歩とによって、ヘリコプタの性能・信頼性は飛躍的に向上し、ヘリコプタ実用化の時代となった。

ベル47型ヘリコプタを4人乗りのKH4型機に独自・改良開発、また西独MBB社とBK117中型ヘリコプタを共同開発しました。何れも傑作機として名を留めています。

川崎重工のヘリコプタ技術は今に至るも自他共に認める日本一。

私にとっては、中間管理者の時代、岐阜・東京の時代、汗を流した時代でありました。

1961昭和三十六年二月、国枝進工場長をリーダとする四名―私は技術担当係長―が、ボーイング・バートル社フィラデルフィア工場へV107ヘリコプタ導入の為に出張しました。以来今日まで、海外渡航二十ヵ国、四十九回、ヘリコプタを軸に、世界を飛び回って、多くの国の多くの人々と、ヘリコプタを語り、ヘリコプタに汗を流してきました。

導入時は、事故多発、信頼性も低く、これが量産機かと言われたV107をベースにKV107IIAを改良開発、米国FAAの型式証明を取得しました。これも現在まで日本からはKV107IIA、唯一機種。

日本では陸（輸送）・海（掃海）・空（救助）の3自衛隊と警視庁、関汽エアーライインズ、エアーリフトで採用され運航されました。輸出国には、タイ、米、スウェーデン（救助）、サウジアラビア（防災）があります。

KV107自動飛行操縦装置は昭和五十二年大河内記念賞を受賞、大汗を掻いたサウジ・プロジェクトでは、ベル・シコルスキ・アグスタ・エアロスパシャル等世界の強豪ヘリコプタ・メーカに勝利しました。

海上自衛隊のKV107掃海ヘリコプタも結果的には世界最初の実用掃海ヘリコプタの開発となりました。川重のヘリコプタ事業はKV107の事業展開により確立されました。

BK117中型ヘリコプタ

私は設計課長・部長として常にその中核に在ったと自負すると共に運が私に付いたと感謝しています。

●ヘリコプタ暦第3期
1982～2001年（昭和五十七～平成十三年）の二十年間

第2期に導入されたヘリコプタの後継機、大型ヘリコプタCH47（重量二十三トン、操縦士等三名、乗客五十五名、吊下げ貨物十トン）がボーイング社より導入された。

CH47大型ヘリコプタ

防衛庁との開発契約、**川重はOH1偵察ヘリコプタを日本で初めて独自・完全開発し、米国ヘリコプタ学会よりハワード・ヒューズ賞を受賞した。**

OH1偵察ヘリコプタ

米国ヘリ学会"ヒューズ賞" OHヘリ受賞

日本ではOH1が唯一つ。

私にとってはビジネス・マネージメントの時代、岐阜へUターン、川崎重工・岐阜工場長、エアーリフト社長、日本ヘリコプタ協会創設・初代会長、日本人初の米国ヘリコプタ学会副会長、欧州回転翼機討論会（加盟国：フランス・ドイツ・イタリヤ・イギリス・オランダ・ロシアの六カ国）組織委員に就任した。担がれる程貫禄の無い私、全て自ら計画を立てて実行し、日本のヘリコプタ技術者をリードしました。

●ヘリコプタ暦第4期
2002～2021年（平成十四～三十三年）の二十年間

世界のヘリコプタは低迷期に入った。ドクターヘリコプタ、防災ヘリコプタ等ヘリコプタの緊急活動に焦点が集まってきた。

私には、幕引き準備の時、後始末の時。幕引き準備も八十歳まで生きると多様です。

◆孫へは、ルーツの継承、墓の建設、自分史（弔辞）を遺す。我が家族制度を維持するためのささやかな行動です。

◆日本ヘリコプタ協会には、平成十八年四月、三菱重工業（株）横浜ビル会議室にて、「ヘリコプタ発展の為には何が必要か、ヘリコプタ協会は何を為すべきか」を討論し、その結果を日本ヘリコプタ協会会報に書き残しました。

◆一般社会には、平成十八年、第3回AHS国際会議にて、**「大震災時におけるヘリコプタ空中消火の盲点」**と題して、大震災時、大型ヘリコプタCH47の空中消火能力と緊急発進時間とを例にとり、

「広域複合大災害発生直後の減災活動の主体は陸上自衛隊と法でこれを定め、陸上自衛隊にCH47大型ヘリコプター〇機を中核とする大中小ヘリコプタ群からなる中部ヘリコプタ空中機動旅団を編成、名古屋空港に駐留させ、愛知県守山の陸上自衛隊第十師団八千名の精鋭と共同して自然・事故大災害に緊急対処する。

同時に南海大地震に備えて近畿ヘリコプタ空中機動旅団を伊丹の大阪空港へも駐留させ、更に、将来の道州制を睨んでこれを順次各道州にも進めて行く」と老いの一徹ヘリコプタ老爺がラスト・メッセージを咆哮した。

国家財政赤字八百兆円、大震災対処にも自ずから限度がある。

無いものねだりでは無い。陸上自衛隊が現有する大中小ヘリコプタを東京一極集中から地方への分散配備を唱えるものである。

治山・治水、自助・共助・公助、消防隊も皆やれば良い。しかし、鍋釜風呂から架橋用舟艇まで保有する陸上自衛隊は災害対処最大の実力集団、これとヘリコプタ機動旅団とを直結し、**地震発生後一時間以内に緊急出動**、これが今直ぐ手の付けられる減災対策、安上がりで最も効果的な最善の減災公助である。

◆最後に、米国ヘリコプタ学会には、日本ヘリコプタ技術の発展に対する長年の貢献に対して謝意を表し、自作油絵「富士」F10号を米国ヘリコプタ学会フィリップJ・ダンフォード会長に贈与した。米国ヴァージニア州アレキサンドリアの学会本部に長く展示保管される由。

（終わり）

Motoi Yoshiwaka Painting Presented to AHS Board

During Heli-Japan, hosted November 15-17, 2006 in Nagoya by the AHS Japan Chapter, Motoi Yoshiwaka, a founder and first president of the chapter, provided a presentation on "Blind Spot in Helicopter Firefighting at Large Earthquake Disaster." He

Motoi Yoshiwaka presenting his painting, Mt. Fuji, to AHS Chairman Phil Dunford.

Phil Dunford, second from right, presenting the painting to AHS Board Members Petr Prduzus, John Davis, Somen Chowdhury, and

旧職員の思い出

岡工時代の思い出

旧建築科教員　中西　忠彦

退職時

先日、工友会事務局の佐藤先生から懐かしい声で原稿依頼があった。彼が岡工の生徒会長をしておられた時、機械科を統率して体育祭を優勝に導いた先生である。そんな思い出も岡工時代にあったひとコマだ。

私は、昭和39年4月、21歳で未知の岡山へ単身赴任した。（東京オリンピックに初めてカラーテレビ放映）吉田三郎校長の時代である。学校のすぐ近くの津倉町に下宿した。校舎も一、二号館、理科棟と四実習棟のみが今のような鉄筋コンクリート造で講堂、管理棟など多くは、木造だった。又、大安寺高校が出来たばかりで、岡工の南西の旧校舎を間借りしていた。

私は、赴任当時、多くの先生方に可愛がっていただき、休日には吉備路を歩き、国分寺や宝福寺、造山古墳、福田海など案内してもらった。その年の5月5日付けの山陽新聞「岡山見たまま」に新任の先生として紹介された。その中で私は、「新産業都市に岡山が指定されこれから発展する町だ」とか「中庭、ピロティーのある岡山県庁のデザインに感心した」と話している。

当時の岡山駅西口も小さく、国体通りが昭和37年の岡山国体時に出来たばかりであった。授業の持ち時間も14時間と少なく、一年生（45名）の副担任。この時の卒業生も、現在58歳の熟年である。

私は、建築科の教員であり、岡工に16年、水工に3年、再度岡工で20年と、通算39年間を勤めた。今から思うと、本当に恵まれた年月だったと感謝している。私の関わった建築科の卒業生も数えてみると二千余名にもなる。平成15年3月に退職するまで、卒業生が学校を訪ねてきても何とか対応が出来、互いに昔を思い出したものだ。

振り返ってみると、多くのことがあった。①文化委員会の指導を通して、文化祭を盛り上げた。中でも、生徒、教員、有名人に「21世紀の岡工像」と題して作文、アンケート等を募り、発表したこと②計算技術検定の創設③建築科展の創設④3年越しのシンボルタワーの制作（一号館南）⑤百周年記念会館の計画から竣工に携わったこと⑥岡工校誌の創設など。また、卒業時に一人ずつ、言葉と絵を添えた色紙を贈呈した。卒業生が相当経ってから「色紙を大切にしている。」と話してくれると、教員冥利に尽きる思いがする。

（2007．12．10）

昭和40年3月頃

昭和40年3月頃のグランド・左端に講堂があった。

花岡先生の言葉

木村　英毅（昭和32年工業化学科卒）

心に残る言葉がある。ふと耳にし、目に留まった中で、心の琴線に触れ終生忘れられない言葉となったものである。

昭和二十九年県立岡山工業高校工業化学科に入って専門科目最初の授業は花岡周作先生の製造化学だった。苛性ソーダ製造の講義中『副産物の有用化』が化学工業の成立する重要な条件である」という言葉で頭に強烈なインパクトを受けた。先生はソルベー法がルブラン法に取って代わったのは、副産物が前者の炭酸ソーダに対し後者は硫酸カルシウムで、有用性に差がついた為であると解説された。更に「化学製品の製造では、副産物を全て利用し、廃棄する物は水だけにすべきである」と話された時化学技術者の見方考え方を教えられたと思った。このような考え方が出来るようになる為には専門書を読まなくてはと思い、県立図書館で化学専門書を借り予習復習に活用した。亀高徳平先生の「理論応用無機化学」は分厚いが分かり易く度々借り出し読み耽った。また山本博人先生の「化学計算法」という問題集が面白く片端から問題を解いた。結果的に学力は向上し化学に対して大きな自信を持てるようになった。

一年前中国から故国日本に帰国したものの帰国子女が経験する、周りの人達との考え方のずれを中々解消できず心の中に引きずっていた。ただ一つ好きな化学の勉強だけが心の支えだった。その学業に自信が付いた。その事は高校生として故国で生きる自信になった。学校内外の友人達と積極的に交わり、終生共にできる親友も得られた。周囲との考え方のずれは気にならなくなっていたのである。

大学卒業後会社に入って新しいアルキド樹脂の合成を命じられた時「副産物を有用化し廃棄物は水だけにする」という花岡先生の教えを研究理念に決めた。従来の装置を改良し生成する水の反応系への逆流を完全に防止したことが、結果として新樹脂合成の成功に繋がった。この樹脂製品は四十年を越える長い商品寿命を保っており私の誇りとなっている。

花岡先生の言葉は高校生活に自信を持てるきっかけとなっただけでなく、社会に出ても技術者として生きる座右の銘の一つとなった。県立岡山工業高校に学んで本当に良かったと母校で受けた教育に感謝している。

卒業生の思い出

岡工で学び、今思う事

昭和44年建築科卒　難波恭一郎
株式会社なんば建築工房

月日の流れるのは早いもので、岡工を卒業して四十年が経とうとしている。十年ひと昔のたとえから言うと、大むかしの話である。

当時の我々は学生運動の真っただ中で、現状打破とか、人生の生き方であるとか、今から思うと、おしりの青い分際で！しかし、真剣に、真面目に語りあったものである。そうかと思うと、興味津々に飲酒、喫煙、マージャン等々、色々な誘惑もあり、支離滅裂な学生生活を送っていたようです。

私は物心ついた時から大工の中で育ち、遊び道具がノコギリにカナヅチ。小学校二年生の時、父より大工道具を与えられ、中学生の時には、春、夏、冬休みは現場で父と一緒に大工仕事をしていたように思います。

このような環境で育ったせいで、おのずから建築に興味が湧き、いつしか自分で設計した家を自分で建てたい、と強く思うようになり、岡工に入学しました。（当時としたら、大変扱い易い素直な生徒であったらしいですが）ですから、専門教科だけは誰にも負けたくない思いで真剣に授業を受けた覚えがあります。しかし、心の中には大学へ行けないコンプレックスを強く持っていました。

そんな思いを助けてくれたのが岡工の三年間でした。四十人、一クラス。家庭的に、経済的にも問題を持った友も多くいました。その中で、自分という人間がいかに恵まれているか、考えが甘かったかを思い知らされました。そして、自分の目標をより明確にして下さった先生方。今思うと本当に頭の下がる、感謝の念でいっぱいです。

三十歳で独立をし、平成元年に会社組織に変更しました。人は「大変ですね。」と言いますが、私は自分の思いで設計、施工出来るのですから、造る喜びの方が、苦労よりはるかに大きく、充実した日々を送っています。

私はこの思いに報いるにはいったい何が出来るでしょうか？それは今入社している若者たち、これから入社してくるであろう子供たちに目標を持たせ、目標に向かって努力することの大切さを教えること、建築の素晴らしさを教えることが私に出来る小さな恩返しであると思っています。

第58期生徒会長
枦　祐太朗

僕が生徒会長として過ごしたこの一年間は、生涯忘れられない一年となりました。楽しいこと、苦しいこと、悲しいこと、達成したこと、失敗したこと、出会ったこと、感動したこと、涙したこと、この文には書ききれないほどの思い出を作ることができました。今回この文には、そんな僕が会長になる前後の思い出と、現在の心境を書き記させていただきます。

僕が二年生だった頃の冬、生徒会長という明らかに自分に不相応な役に立候補しました。大した志もなく、ただ会長をやろうという立候補者がいつまでも現れないので、それなら少し興味のある僕がやってみようかなと思ったのが始まりです。

選挙は無事に当選し、生徒会執行部に入部することになりました。生徒会執行部とは見返りがない、いわばボランティアに近い形で年間の生徒会活動を企画・運営してくれている素晴らしい部です。生徒会長・副会長・執行部員は運命共同体と言われ、その名の通り後々の苦楽を共にするかけがえのない大切な仲間となる人達です。

とは言っても、会長になりたての頃は見ず知らずの人ばかりだったのでまだ大した仲間意識は持っていませんでした。そんな状態で春が近づいてきて、四月から新学期が始まったとたん一気に忙しくなりました。僕は四月の終わりにある行事を一つ任されたので、毎日放課後残って作業をしていました。今までしたことのない作業なので上手くいくはずもなく、何故僕一人でこんなことをしないといけないのだろうと、苛立ちさえ覚えました。そんな時、救いの手を差し伸べてくれたのが執行部のみんなでした。みんな自分の仕事ではないのにも関わらず、献身的にサポートしてくれました。みんなが協力してくれたおかげで無事研修も終え、初めて一つの仕事をやり遂げることが出来ました。なかなかうまくいかず苦しい思いをしましたが、今思えばそれも大切な思い出のひとつです。

そして現在は会長の任期を終え、今度は来年度の執行部の為に引継ぎをしています。もう会長ではないんだと実感し、少し寂しいです。多くの仲間に囲まれ、本当に幸せな会長生活を過ごすことができました。

化学工学科

善行少年高校生団体表彰

学んだ知識で地域に貢献

▲表彰を受ける代表の大岩利晃君（右）と増田侑真君（左）共に化工科2年

▶化学の不思議さ面白さを子供たちに体験してもらう人気の出前教室

長年にわたって地域の子どもたちに化学の楽しさや不思議さを体験してもらうボランティア活動を続けている化学同好会が善行表彰されることになった。

この活動は平成9年5月5日に岡山市児童会館で行われた『こども祭り』に「化学の学校」を開催し好評を得たことから毎年続けられ、今年で10年を迎えた。最初は有志の生徒で活動していたが、5年前から化学同好会を結成し先輩方の活動を引き継いだ。

この「化学の学校」以外にも京山公民館の『夏休みフリー塾』や、石井小学校での『出前講座』にもボランティアとして参加し地域の方々と交流し、化学の楽しさを広めてきた。

こうした活動に対して、岡山西警察署から『善行少年、高校生団体表彰』となったのだ。

準備や休日返上で大変だが、子どもたちが瞳を輝かせ喜んでくれる限り、この活動はこれからも続けられていくだろう。

後輩の活躍

機械科

▼第2回高校生ものづくりコンテスト
溶接部門　第1位　山本行志（機3）

土木科

▼第43回県測量技術競技大会
水準測量の部　第1位Aチーム
森下和行　山本雄一
湯浅皓規（以上土2）

▼第24回中国地区測量競技大会
水準測量の部　第2位Aチーム
湯浅・森下・山本

▼高校生ものづくりコンテスト全国大会測量の部県大会
第1位　Bチーム　岡田　泉　片山裕久　福本　浩（以上土3）

▼高校生ものづくりコンテスト全国大会測量の部中国大会
第1位　Bチーム岡田・片山・福本

自転車競技部

中国地域高校学校対抗競技選手権
8年連続8度目の総合優勝
国民体育大会
第7位　峰重祐之介（土3）
全国高等学校総合体育大会
第5位　植田知英（建3）

ボクシング部

国民体育大会
フライ級第3位　田中宏樹（土3）

陸上競技部

県陸上競技選手権大会
新人陸上競技大会
中国高等学校新人陸上競技大会など
上位入賞多数
県高校駅伝競走大会　第4位

バスケットボール部

選抜優勝大会岡山県予選会　第3位

デザイン科

▼おかやま県民文化祭ポスター原画
最優秀賞　古屋野智子（デ2）

▼国際化対策推進広報用ポスター展
優秀賞　山奥淳史（デ2）

▼全国高校生現代アートビエンナーレ展
倉敷市長賞　津下直子（デ2）

▼「花と緑の絵」「ポスター」コンクール
優秀賞　尾崎奈美（デ2）
池田美穂（デ2）

▼人権啓発ポスター
岡山県教育長賞　板野宏実（デ2）

建築科

▼高校工業教育協会建築系部会設計製図競技会
優秀賞　林原大地（建3）
佳作　中元勇介（建3）

弓道部

国民体育大会中国ブロック大会
少年男子　第2位　佐藤達也（土3）
国民体育大会　少年男子遠的競技
第5位　佐藤達也
県知事杯弓道大会　女子団体　第1位

空手道部

岡山市総合体育大会
男子団体組手　第2位
秋季選手権大会
女子個人形競技　第3位　寄玉理央（情1）

少林寺拳法部

女子全国大会出場を決める

写真部

全国高等学校総合文化祭
奨励賞　尾崎奈美（デ2）全国大会出場へ

編集後記

関係者多数のご協力をいただき、第49号の会報を無事発刊することができました。寄稿いただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。

本年度は、平成17年にスーパーITハイスクールとして文部科学省に認定され、『ICT人材育成プロジェクト』として研究発表が行われた年でもありました。生徒の半導体についての研究発表、そして上浦洋一教授（岡山大学）の講演会と工業高校の知識・技術力の高さを実証された発表会となり、3年間の成果を岡工から全国にむけての発信の場にもなりました。

会報の誌面充実のため、各地の話題、会員の動静、同窓会の開催などがありましたらお知らせください。今後ともよろしくご協力いただきますようお願いいたします。

（昭60工デ卒　和気）

ご意見・情報
お問い合わせは…

〒700-0013
岡山市伊福町4-3-92
岡山県立岡山工業高等学校
工友会事務局
tel:086-252-5231
fax:086-252-7130
http://www.okako.okayama-c.ed.jp/